JTB協定旅館ホテル連盟のみなさま

旅館・ホテルのためのSDGs推進講座(1)

お客さまと社員に選ばれる持続可能な旅館・ホテルとは

JTB協定旅館ホテル連盟

ビデオ動画シリーズ

	テーマ	主要ポイント
Vol.1	SDGsの基本	◆ SDGsとは? ◆ なぜいまSDGsが重要なのか? ◆ 世界の潮流、日本の取り組み
Vol.2	旅館・ホテルにおける 取組事例のご紹介	◆ 旅館・ホテルが取り組む意義 ◆ ホテルでの取り組み ◆ 旅館での取り組み
Vol.3	SDGsへの取り組みのヒント （お客さまのために、地域とともに）	◆ 海外からのお客さま ◆ 学校教育とESD、修学旅行 ◆ コト消費：SDGs体験プログラム
Vol.4	SDGsへの取り組みのヒント （従業員のために、お客さまとともに）	◆ 働きがいのある職場作り ◆ 業務効率化×環境配慮
	今後の取り組みにあたって	◆ 従業員への理解浸透 ◆ 魅力ある宿泊提案 ◆ 従業員が皆で考え進めるSDGs

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

ご案内役

小林　博之

㈱ソーシャルキャピタルマネジメント　代表取締役社長
SDGs 17 Club 主宰
2030SDGs　カードゲーム認定ファシリテーター
環境省「21世紀金融行動原則」起草委員会委員
日本工業大学専門職大学院　客員教授
グロービス経営大学院　教員
一般社団法人 EDUCATION design 監事

日本興業銀行、みずほ証券に約30年在籍。
経営企画部副部長、コーポレートコミュニケーション部長等を務め、
社員参加型CSR活動（環境保護活動）を主宰。
金融機関100社で協働し6000人が参加する「FITチャリティラン」
の実行委員長も務める。
SDGsに関する講演、ワークショップ等主催多数。

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

4

第1回：SDGsの基本

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

SDGsとは？

- 「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称
- 2015年9月の国連サミットで採択

2015年9月　ニューヨーク国連本部

SDGs

国連加盟193か国が2015～2030年の15年間で達成する行動計画

- 17の大きな目標
- それらを達成するための具体的な169のターゲット

MDGsからSDGsへ
途上国問題から世界全体の問題へ

ミレニアム開発目標（MDGs）から持続可能な開発目標（SDGs）へ

2001～2015年
ミレニアム開発目標
（MDGs）

2016～2030年　持続可能な開発目標（SDGs）

17目標、169ターゲット、230指標　全ての人々の目標＜世界共通言語＞

(c) Social Capital Management, Inc. 2019

SDGsの17のゴール

1. 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

4. 質の高い教育をみんなに

すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

2. 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

5. ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

3. すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

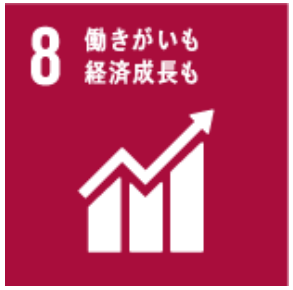
6. 安全な水とトイレを 世界中に

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

SDGsの17のゴール

7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



8. 働きがいも経済成長も

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

9.産業と技術革新の基盤をつくろう

強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

10. 人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の格差を是正す る

11. 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

12. つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する

SDGsの17のゴール

13. 気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

14. 海の豊かさを守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

15. 陸の豊かさも守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

16.平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

17.パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

トリプルボトムライン：経済・環境・社会の調和

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

キーワード

地球規模

日本発で世界を変える、世界の問題を解決する

バックキャスティング思考

2030年、2050年にありたい姿を想定し、そこから戻る

誰ひとり取り残さない

一部の人だけが良ければいいのではない

知る、理解する　→　行動する10年へ

DECADE OF ACTION

2020→2030

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

ビジネスに生じている大きな変化（例）

- **脱プラスチック**
  - ポリ袋・ストロー利用縮小、代替素材の研究開発のスピードアップ
- **クリーンエネルギー化**
  - 石炭火力からの撤退、太陽光発電、風力発電事業の強化
  - 製品製造のための電力をクリーンエネルギー化
- **循環型社会**
  - 食品ロス、恵方巻問題
- **エシカル消費**
  - フェアトレード、ヴィーガン料理
- **「安く作れれば作り方は関係ない」時代の終焉**
  - トレーサビリティ強化
  - 製造拠点における労働実態の把握

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

政府の動き（SDGsアクションプラン2020）

『SDGsアクションプラン2020』のポイント

- 日本は，豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため，一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき，世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献。SDGsの力強い担い手たる日本の姿を国際社会に示す。
- 『SDGsアクションプラン2020』では，改定されたSDGs実施指針の下，今後の10年を2030年の目標達成に向けた「行動の10年」とすべく，2020年に実施する政府の具体的な取組を盛り込んだ。
- 国内実施・国際協力の両面において，次の3本柱を中核とする「日本のSDGsモデル」の展開を加速化していく。

I. ビジネスとイノベーション ～SDGsと連動する「Society 5.0」の推進～

ビジネス
- 企業経営へのSDGsの取り込み及びESG投資を後押し。
- 「Connected Industries」の推進
- 中小企業のSDGs取組強化のための関係団体・地域，金融機関との連携を強化。

科学技術イノベーション（STI）
- STI for SDGsロードマップ策定と，各国のロードマップ策定支援。
- STI for SDGsプラットフォームの構築。
- 研究開発成果の社会実装化促進。
- バイオ戦略の推進による持続可能な循環型社会の実現（バイオエコノミー）。
- スマート農林水産業の推進。
- 「Society5.0」を支えるICT分野の研究開発，AI，ビッグデータの活用。

II. SDGsを原動力とした地方創生，強靭かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

地方創生の推進
- SDGs未来都市，地方創生SDGs官民連携プラットフォームを通じた民間参画の促進，地方創生SDGs国際フォーラムを通じた普及展開
- 「地方創生SDGs金融」を通じた「自律的好循環」の形成に向け，SDGsに取り組む地域事業者等の登録・認証制度等を推進

強靭なまちづくり
- 防災・減災，国土強靭化の推進，エネルギーインフラ強化やグリーンインフラの推進
- 質の高いインフラの推進

循環共生型社会の構築
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた持続可能性の配慮
- 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実現に向けた海洋プラスチックごみ対策の推進。
- 地域循環共生圏づくりの促進。
- 「パリ協定長期成長戦略」に基づく施策の実施。

III. SDGsの担い手としての次世代・女性のエンパワーメント

次世代・女性のエンパワーメント
- 働き方改革の着実な実施
- あらゆる分野における女性の活躍推進
- ダイバーシティ・バリアフリーの推進
- 「次世代のSDGs推進プラットフォーム」の内外での活動を支援。

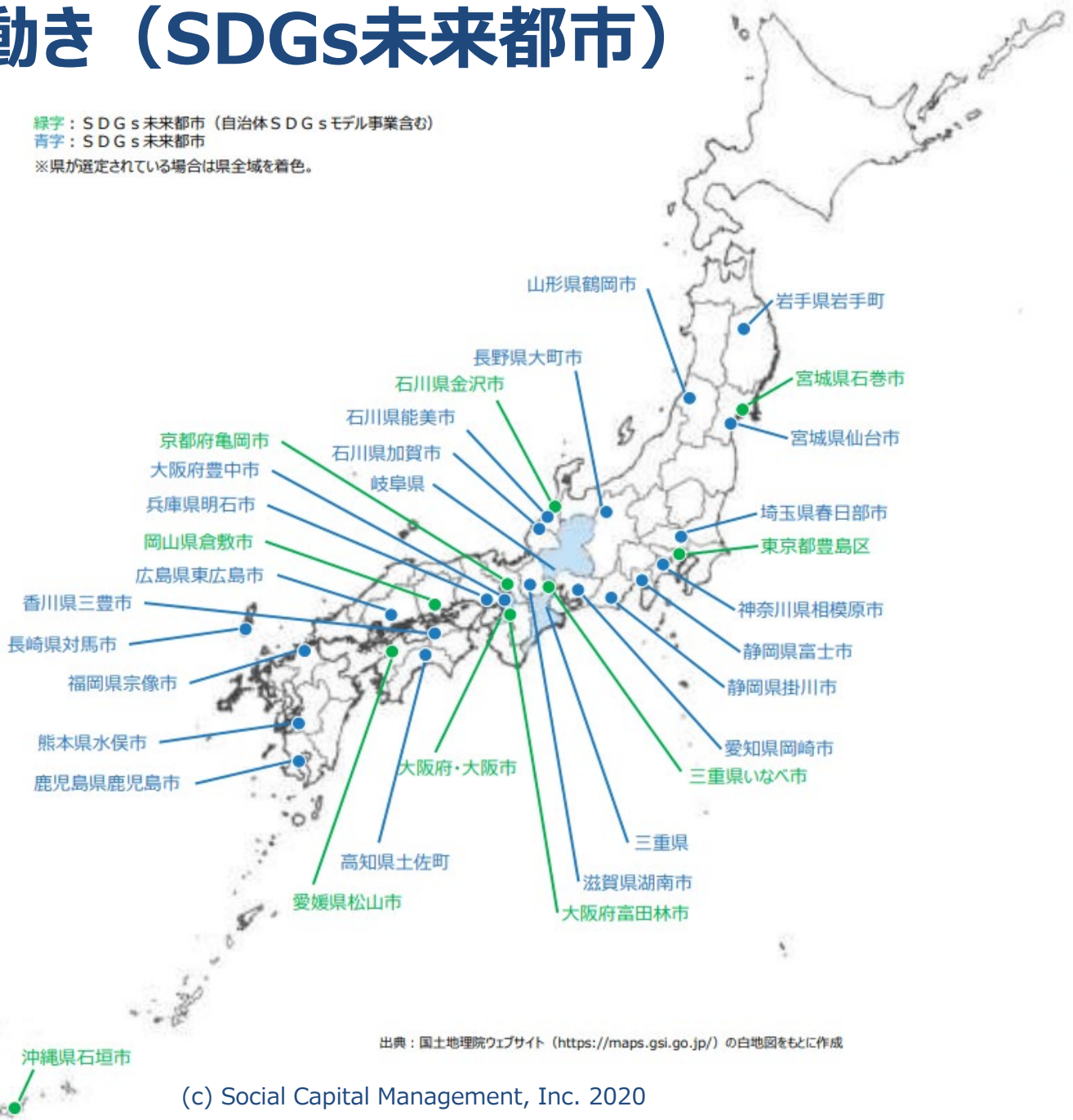
「人づくり」の中核としての保健，教育
- 東京オリンピック・パラリンピックを通じたスポーツSDGsの推進。
- 新学習指導要領を踏まえた持続可能な開発のための教育（ESD）の推進。
- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）推進
- 東京栄養サミット2020の開催，食育の推進。

国際社会への展開

2020年に開催される，京都コングレス（4月），2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（7月～9月），アジア・太平洋水サミット（10月），東京栄養サミット2020（時期調整中）等の機会も活用し，国際社会に日本のSDGsの取組を共有・展開していく。

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

自治体の動き（SDGs未来都市）



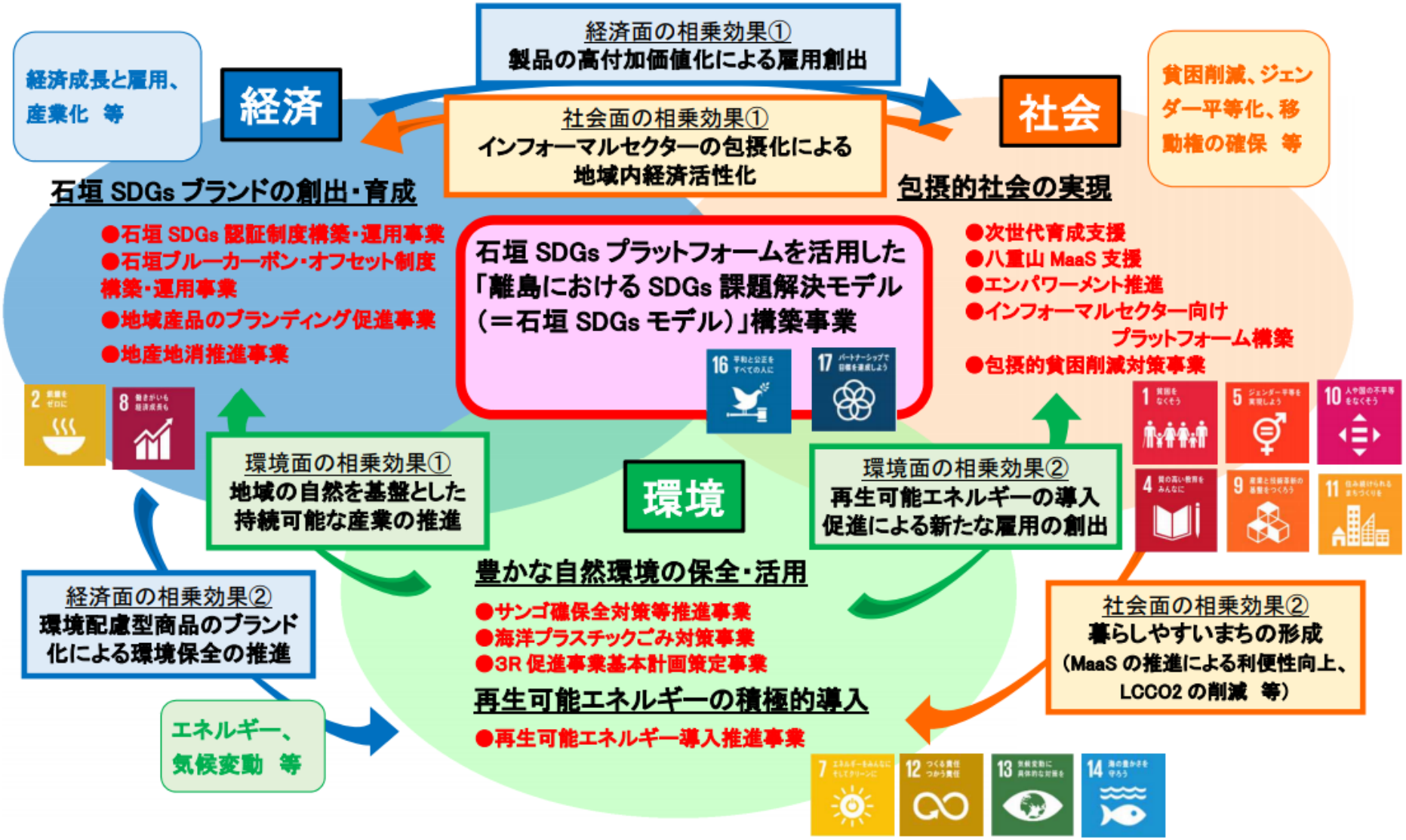
(c) Social Capital Management, Inc. 2020

2020 年度自治体SDGsモデル事業提案概要

沖縄県石垣市

自治体SDGsモデル事業名：
石垣 SDGs プラットフォームを活用した「離島における SDGs 課題解決モデル（＝石垣 SDGs モデル）」構築事業

取組内容の概要： 地域における社会課題を SDGs というツールを用いて解決していく「石垣 SDGs プラットフォーム」の構築・運用により、複数課題に対する解決策をパッケージ化した「離島における SDGs 課題解決モデル（石垣 SDGs モデル）」を作成し、国内外に展開していく。



愛媛県松山市

2020 年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名： “観光未来都市まつやま”推進事業

取組内容の概要：「道後温泉・松山城など世界に誇る観光資源」「太陽の恵み豊かな自然環境」「お接待の精神が宿る地域コミュニティ」「多様な主体が活躍できる文化的土壌」など、脈々と受け継がれてきた地域資源を活かした取組を多様なステークホルダーが協働し、安全で環境にやさしい持続可能な“観光未来都市まつやま”を目指す

フィールドミュージアム構想

俳句甲子園

誰もが活躍できるライフスタイルの創出

回遊性向上で観光産業の活性化

三側面をつなぐ統合的取組

松山 SDGs プラットフォーム事業

先行事業：スマートアイランドモデル事業

環境×社会	社会×経済	経済×環境
太陽エネルギーの地産地消で防災力強化	グリスロやE-Bikeで島民や観光客の移動手段確保	自然豊かな地域の魅力発信でインバウンド誘客

経済

課題：都市の魅力向上で選ばれる都市づくり

まちづくり：地域固有の資源を利活用する『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想の推進

観光振興：道後温泉本館や松山城、「ことばのちから」などを活用した文化ツーリズムの推進

女子旅：柑橘(ビタミン)x 美人の湯 x 買い物＝癒し 紅まどんなど、農林水産物のブランド力強化

環境モデル都市の推進で都市ブランドの向上

「道後REBORNプロジェクト」で誘客につなげる本館の保存修理工事

女性一人旅の人気温泉地５年連続１位（H26～H30 年度）

社会

課題：生活に安らぎがある安全・安心で快適な暮らしの実現

花園町周辺整備

防災士数日本一

防災・減災：地域コミュニティが主体となったオール松山体制の防災力強化

都市・交通：歩いて暮らせるコンパクトシティ+ネットワークの推進（交通結節点と”まちなか”の再開発）

文　化：文化的土壌を活かした女性・障がい者・若者・高齢者など多様な主体が活躍する社会の形成

自立・分散型エネルギーシステム構築で防災力強化

スマートシティの推進で温室効果ガスの削減

環境教育：フライブルク市との連携（SDGs 姉妹都市宣言・エコフレンドシップ協定）

エネルギー：サンシャインプロジェクトを軸にネットゼロエネルギー都市の推進

自然環境：瀬戸内海国立公園などを活用したサステナブルツーリズムの推進

環境

課題：温暖な気候や瀬戸内の島々など豊かな環境との共生

Setouchi Island 中島

Matsuyama 市×Freiburg 市協定

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

2020 年度自治体SDGsモデル事業提案概要

石川県金沢市

自治体SDGsモデル事業名：市民生活と調和した持続可能な観光の振興
～「責任ある観光」により市民と観光客、双方の「しあわせ」を実現するまち金沢～

取組内容の概要：本市を訪れる観光客が増加する中、ユネスコ創造都市金沢の根底にある自然・歴史・文化に基づく生物文化多様性をベースとした、金沢の「日本の由緒あるほんもの」の豊かさを市民・来街者の双方が理解した上で、まちの魅力を共創し、持続可能なまちを実現する。

想像してみよう 金沢のミライ
IMAGINE KANAZAWA 2030

経済

課題：新たな産業の創出
- ●クリエイティブ産業創出金沢会議（EAT金沢）の開催
- ●金澤町家等を活用した金沢 AI ビレッジ形成促進

課題：工芸の継承・発展
- ●工芸のつなぎ手人材の育成
- ●工芸品の海外アート市場開発
- ●国立工芸館との連携の推進

社会

課題：金沢の歴史・文化への理解の促進
- ●大学生向け文化体験プログラム
- ●金沢建築キッズプログラム

課題：多文化共生社会の実現
- ●宿泊施設や食のバリアフリーの推進
- ●共生社会ホストタウンの推進
- ●アウトサイダー・アートの魅力発信
- ●まちなかの歩行環境の再整備

環境

課題：食品ロスの削減、グリーンインフラの活用 低炭素社会の実現
- ●宿泊施設や飲食店での食品ロスやプラスチックの削減、加賀野菜など地産地消の展開
- ●「木質都市・金沢」の創出
- ●用水、庭園などによる、水と緑のネットワークづくり
- ●生物文化多様性の保全・啓発
- ●金沢にふさわしい次世代交通サービスの検討

経済面の相乗効果
伝統産業の発展や新たな産業の創出による文化の維持・継承・発展

社会面の相乗効果
多様な文化による刺激を活かした産業のイノベーション

消費型観光から持続可能な交流型観光へ
「金沢 SDGs ツーリズム」の推進

【観光と市民生活の調和】
- ○持続可能な観光振興推進会議（仮称）の設置
- ○啓発のための映像やＨＰの作成

【域内経済循環（内発的発展）の創出】
- ○金沢 21 世紀美術館や価値創造拠点を中心とした、多様な人々が共創するコミュニティの形成
- ○SDGs 体感ツアーの開発（市内・広域）

経済面の相乗効果
新たな産業の創出や、金澤町家の付加価値の向上による循環型社会の実現

環境面の相乗効果
暮らしやすさ、滞在しやすさの向上による多様な人材の呼び込み増加

社会面の相乗効果
歩きやすいまちなかの実現による低炭素社会の実現

環境面の相乗効果
暮らしやすさの向上による QOLとシビックプライドの向上

- ・国連大学＆金沢青年会議所等との協働
- ・ユネスコ創造都市ネットワークの活用による取組の推進

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

大企業の動き（経団連：Society 5.0との関係）

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

本部長賞
（内閣総理大臣）

魚町商店街振興組合（福岡県北九州市）

商店街から発信するSDGs達成に向けたESDの実践

第3回ジャパンSDGsアワード

【取組内容】

- **商店街として「SDGs宣言」**を行い、「誰一人取り残さない」形でニーズに応える**イベントやサービスを様々なステークホルダーと連携しながら実施**。
- ホームレス自立支援・障害者自立生活支援などの**社会的包括に視点を置いた活動**や、飲食店等と協力した**フードロスの削減**、規格外野菜の販売等の**地産地消を推進**。
- 商店街内のビルをリノベーションし、**若手起業家やワーキングマザーのための環境整備**を実践。
- 透過性太陽光パネルを設置して商店街の電力として活用。公共交通機関を利用した来店を促進。憩いの場所の新設や**商店街内の遊休不動産を再生するリノベーションまちづくりを実施**。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）	
普遍性：	市民の生活の一部である商店街の変容は市民の変容へと繋がる。この実践例は、国際的ロールモデルになりうる。
包摂性：	誰もが利用しやすい商店を目指し、ホームレスや障害者の支援を実施。多言語マップの作成やWi-Fiの完備等アクセスを確保。
参画型：	イベントを企業・NPO/NGO・大学などと連携し企画・運営。他県の商店街との交流・連携や海外からの視察の受入れ。
統合性：	教育を通して経済・社会・環境の統合を図るべく、環境や社会的包摂に配慮する人材を育むことに貢献。
透明性と説明責任：	商店街振興組合関係者間で意見を出し合い計画を策定。ポスターや紙新聞等による情報周知・報告・発信を実施。

Japan. Committed to SDGs

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

SDGsパートナーシップ賞(特別賞)

株式会社大川印刷

貢献する目標（SDGs）

＜取組概要＞

- **SDGs経営戦略を策定**し，経営計画そのものに自社の本業で実現可能なSDGsを実装。**「ゼロカーボンプリント」**に加えて2020年までに**ごみゼロ工場を達成する活動**を推進。
- パートを含む**全従業員を対象に社内ワークショップを実施**，各自の問題意識を全体共有した上で**SDGsとの関連付けを行い，課題を解決するプロジェクトチームを従業員主体で立ち上げSDGsを推進**。
- その他，障害者支援活動，RE100へ向けた取組，子ども向けのSDGs工場見学ツアー実施，SNSやHPを使った積極的なSDGsの取組の発信等。

＜選出のポイント＞

- 地域の中小企業が，全社員へのSDGs教育を実施し，ボトムアップ型でSDGs経営戦略を策定。

SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）	
普遍性	中小企業が「SDGs経営戦略」を策定し，経営に具体的な形で実装。国内外でのロールモデルとなりうる。
包摂性	性別・役職・正社員・パート等による区別のない「SDGs経営計画」プロジェクトチームへの参加を確保。
参画型	RE100への取組における行政，民間企業，市民との連携。障がい者施設との連携，子ども向けの工場見学等実施。
統合性	環境印刷及び地域との連携活動の中で，環境・経済・社会の統合的発展が図られている。
透明性と説明責任	各取組をCSR・SDGs報告会で発表。定期的な活動レポートの発行やSNSやHPを通じた積極的な発信を行っている。

(c) Social Capital Management, Inc. 2020

企業としてSDGs経営に取り組む意義

お客さまに選ばれる	お客さまからの評価向上 「価値」を認めてくれるお客さまの「共感」
社員に選ばれる	社員の自社への誇りの高まり →エンゲージメント
学生に選ばれる	優秀人材の採用力の向上

(c) Social Capital Management, Inc. 2020